

## 世界はお金の供給量でコントロールされる

中央銀行制度、ヴェルナー氏の『円の支配者』を読めば、日本では「日々、円を信用創造している」日本の全ての銀行が中央銀行日銀の支配下にあるのが理解できます。日本では「信用創造権」を有する「円の支配者」が日銀です。お金の支配者は「信用創造権」を有する中央銀行なのです。これが中央銀行制度であり、お金の支配者はお金の供給量によってインフレとデフレの創出も、バブルを作りバブルをはじけさせるのも自在です。

### ●インフレ

市場を【お金】と【物・サービス】に分けましょう。信用創造によって【お金】の供給量は自在に出来ます。現在日本で公開されている準備率は0.05%、この準備率を適用すれば預金1万円で1999万円までは法的に貸出可能なのです。貸出が【お金】の供給となるので市場に大量の【お金】を供給するのを「金融の緩和」といいます。「金融の緩和」とは市場に【お金】を流し込む蛇口を緩めるという意味です。こうしてある業界に、例えば重工業に多くの融資がなされ大量の【お金】が流れ込むと、重工業の業界はその【お金】で活気づき盛んな商取引がされます。【物・サービス】の価値があがり好景気となるのです。しかしその金融緩和が過剰になると過剰で多くなりすぎた【お金】の価値が下がります。これと逆に多くなりすぎた【お金】と比べて相対的に量が少なくなった【物・サービス】はその価値が上がります。【お金】の価値が下がりすぎ【物・サービス】の価格が高くなりすぎた状態がインフレです。インフレは【お金】の供給量で作られるのです。

### ●デフレ

金融緩和で景気が過熱しすぎた状態を平穩にさせましょう。どうすれば良いか？ 税収を高くして【お金】を回収する方法もありますが、蛇口を閉めて「金融の引き締め」によって市場での【お金】の供給量を減らせばいいのです。これで少なくなった【お金】の価値は上がり、インフレで高くなりすぎていた【物・サービス】の価格は下がります。【お金】と【物・サービス】とのバランスがとれます。しかし過剰に【お金】の供給量が少なくなるとどうなるか？ 量的に少なくなりすぎたお金の価値は上がりすぎて、逆に【物・サービス】の価値は下がり価格が低くなりすぎるのです。これがデフレです。こうなると商取引自体の量もそうですが、そこでのお金のやり取り量は小さくなりすぎて市場は冷え込み景気が悪化します。これも【お金】の供給量次第です。

上のようにお金の供給量の加減で景気を良くしたり悪くしたり、インフレとデフレも自在に創出できます。またバブルを作り、またそのバブルをはじけさせるのも実は自在なのです。

### ●バブルの現出と消失

バブルを作るのも難しいことはありません。【お金】の蛇口を全開にして市場に【お金】を供給し続けます。各銀行は中央銀行の支配下にあり、その銀行に大量融資させるのです。当然インフレが起きます。それでインフレで市場が過熱しても更に極端に「金融を緩和」して市場に極端に大量の【お金】を供給するのです。これで「金余り」現象を作ります。余った【お金】が市場をどんどん膨らませます。余った【お金】が過剰な商取引をどんどん生みだし、その取引で大量の【お金】が行き来するようになります。これが「バブル」です。この経験をされた方もおられるでしょう。この「バブルをはじけさす」には？ 「バブル」は市場に極端に大量の【お金】があり、それが加熱してやり取りされている状態ですから、市場からその大量の【お金】を消せばバブルははじけます。どうするか？ 時を見計らい急に金融の蛇口を閉じます。これでもう市場に【お金】は供給されません。更に銀行は融資先に返済を迫り「貸しはがし」を行います。これで生みだされた大量の【お金】はきれいに消失します。これでどうなるか？ 例えば企業の場合それまで活発にやり取りし続けてきた大量の【お金】が突如として消えたので、入ってくる【お金】も支払う【お金】もなくなるのです。倒産するよりありません。これで現実に日本で多くの中小企業の社長が自殺に追いやられたのです。中小企業の社長を自殺に追いやった犯人は誰か？ 答えは分かりきっています。中央銀行日銀です。日銀のプリンスの意図的犯行だったのです。ただし無論その犯人日銀のプリンスにその命令を下した存在もいますが・・・。